

九会地区の道路問題や獣害の解決に向けて



深田 照明 議員
(21政会・加西ともて育つ会)



問 県道高砂加古川加西線の桑原田町から繁昌町までの路肩拡幅工事の進捗は。

答 県の社会基盤整備プログラムでは、令和元年～5年に着手、6年～10年に完了の計画となっていますが、県全体の通学路整備など優先度もあり、具体的な時期は提示されていません。

問 道路舗装面のひび割れや陥没、通学路における白線の引き直しなど補修を急ぐ必要がある場合の対応は。

答 道路パトロールや市民からの連絡により現場を確認し、

緊急の対応が必要な場合は緊急保全整備を行っています。

問 令和4年11月、市道中野家塚線と鶉野飛行場線の交差点において交通事故が発生している。今後の安全対策は。

答 従前より警察と協議して安全管理に努めていましたが、事故を受けて一時停止や左右確認の注意看板、三角コーンの増設など追加の安全対策を行いました。国道372号線加西バイパス完成に併せて信号や右折レーンを設置するの方針を警察から伺っていますが、交通量の増加も想定されるため、協議を継続して適切に対応していきます。

問 九会の南部地域でイノシシによる農作物被害が多く、捕獲期間を米の収穫期まで延長できないのかとの意見もある。猟友

会加西支部では今以上の対応が難しいと聞かすが、市の対応策は。

答 市としても野生動物を適正な個体数に管理するには、狩猟活動や有害鳥獣捕獲が必要と考えます。そのため狩猟者の高齢化による減少への対応として、狩猟免許取得者を増やす取組を行いたいと考え、平成29年度から狩猟免許取得のための補助制度を設けています。猟友会加西支部への加入を要件として、免許取得初年度登録料の概ね2分の1を補助しています。平成29年度から令和3年度までに計30名が制度を利用して免許を取得し、猟友会加西支部に加入されています。

■その他の質問項目

- ・九会地区の小規模保育事業所設置について
- ・脱炭素先行地域指定について

学校給食から「魅力ある加西の教育・食農」へ



北川 克則 議員
(令和新風加西)



問 学校や給食センターにおける食育や地産推進の取組は。

答 各学校では、農産物の栽培、収穫体験などを通して、自然への感謝や食への理解を深めています。植付けから栽培、収穫、調理、レシピづくりを行うハリマ王にんにくや、地産芋のはりまるを用いた下里小学校三ツ星カレーの開発など、地域の様々な団体と連携して活動を進めています。

また、学校給食センターの4名の栄養教諭が各学校の食育活動の現場に出向き、栄養について指導

するとともに、児童・生徒の疑問に答えながら、食育や地産、調理の実践指導なども行っています。

地産地消として、愛菜館からの調達に加え、令和3年度に播磨農高と協定を結び、給食の食材を仕入れています。

問 給食の評判は。

答 令和4年7月に市内小中学生2,739名全員へ実施したアンケートでは、おいしいが全体の8割を超え、味つけもちょうどよいが88%でした。ただし、苦手なものや量が多いという理由で25%が残していると答えています。さらに、加西市でとれた食べ物が使われていることを知っているが53.9%とそれほど高くなく、チラシや献立表に表示しているものの、まだまだ浸透していないことが分かりました。

そのため、食材が市内のどこでとれたのか一目で分かる地図を教室に掲示しているところです。

問 アンケート結果を踏まえた今後の取組は。

答 現在、地元生産者など仕入先を開拓し、市内の農産物を入手しやすい環境整備に取り組んでいます。給食に必要な食材の量と出荷時期との調整など農家と連携を図るとともに、メニュー開発の工夫により地元食材の活用がさらに広がるよう、食育や地産地消を推進します。

意見 保護者や地域の方が給食を試食する機会を設けてほしい。

また、栄養教諭や調理師と専門家との学習研究やメニューの共同開発、玄米や発酵食品のメニュー開発にも取り組んでほしい。